

(6) 大用小学校

学 校 長 弘瀬 利英
校内研究代表者 山脇 昌代

1. 研究主題

「確かな学力を身につけ、ともに学び合う子の育成」

2. 主題設定の理由

本校の児童は、豊かな自然と温かい地域の人達に見守られ、明るくのびのびと生活している。少人数の集団の中で真面目に取り組むことができ、友だちにも優しい。しかし、少人数がゆえに、短い会話で意思疎通がすんでしまい、自分の意見や考えをしっかりと言葉にしてみんなの前で発表したり、説明したりすることに課題のある児童が多い。また、他校との交流会ではなかなか自分を表現できないなど、自己表現力やコミュニケーション能力に課題がみられる児童もいる。

全国学力・学習状況調査や高知県学力定着状況調査等の結果から、国語科の読み取る力に課題が見られたため、3年前から国語科の授業研究に取り組んできた。全学級での研究授業を行い、西部教育事務所の指導主事に『「今求められる」資質・能力を育成する授業づくり』について講話をしていただいた。また、予習を生かした授業づくりとして、説明文・物語文の予習カードを活用し、根拠となる文章を探すなどを行ってきた。また、ワークプリント集を活用し、基礎タイムなどでことばのきまりや読解の力をつけることにも取り組み、基礎学力の定着に努めてきた。

12月の高知県学力定着状況調査の結果は国語科、算数科ともに全国平均+10以上を上まわることができた。しかし、分析を行うと国語科の読み取る力、聞き取る力に課題が見られた。

このような実態から今年度も国語科を中心とした授業研究に取り組み、児童が自ら学べる複式授業のスタンダードを確立し、「読み取る力」「聞き取る力」を高めるための取組を行っていく。取組の中心は、予習を生かした授業づくりとし、国語科の物語文・説明文の予習カードを活用し、児童に「予習⇒授業⇒復習⇒予習」のサイクル化を図り、児童が主体的に学習する態度の育成を図っていききたい。また、今年度はNIE教育の指定を受け、新聞を取り入れた取組を行っていく。高知新聞社の方を講師に迎え、インタビューの仕方や記事の書き方などを教えていただき、国語力の向上を図っていききたい。そして、能力ベースのめあての設定、つけたい力を明確にした授業研究や指導方法の工夫改善に努め、学年に応じた確かな学力の向上をめざしたい。帯タイムや放課後加力学習と連動させながら弱点の克服にも取り組んでいきたい。

研究仮説

- ・話し合い活動の時間を授業の中に十分に確保し、言語活動を活発に行う授業を展開することで、表現力やコミュニケーション能力が高まるであろう。
- ・予習を生かした授業づくりを行うことで、子どもが主体的に学ぶ態度が育つであろう。
- ・丁寧な学習指導を行うことで、基礎基本を確実に身につけることができる。基礎基本が身に付けば、問題文の読解ができるようになり、本校の課題解決につなげることができるであろう。

3. 研究の進め方と方法

①毎月、原則として水曜日を校内研究日として計画的に研究を進める。

ただし、研究推進に必要な場合は、臨時に研究日を設定する。

②研究日の司会と記録については、職員会の司会と記録同様に輪番制で担当する。

③研究の推進や検証に必要な研究授業を計画的に実施する。

学習指導案を作成し、全教員で研究授業に臨む。

- ④研究授業は水曜日に行い、全教員が参観し、事後研修をその後行う。
- ⑤基礎学力の定着と学力の向上をめざす。
- ⑥校内研のはじめに、学級の実態について話し、共通理解を図り、児童の情報交換を行う。
- ⑦指導力を向上させるために、外部講師を招聘して研究の質を高める。

校内研究推進にあたって共通理解しておくべきこと

- ①子どもの実態に基づいた教育実践を進める。
- ②へき地・小規模校の特性が生かせる特色ある教育活動の創造に取り組む。
- ③教育実践を互いに見つめ合い、検証し合いながら共に教師として高め合う研究をする。
- ④前年度までの実践を継承すると共に、より良い実践となるよう改善しながら研究を進める。

4. 具体的な取組

① 授業づくり

- ・研究授業（国語科）を全学級が行い、主体的な児童の活動、教師の発問や評価の与え方、予習を活かした授業づくりを研究する。

教科・領域	月日	学年	単元名・教材名・主題名
国語	6月12日	3. 4年	3年 「ワニのおじいさんのたから物」 4年 「走れ」
国語	6月19日	5. 6年	5年 「世界でいちばんやかましい音」 6年 「風切るつばさ」
国語	10月9日	2年	2年 「ビーバーの大工事」
国語	11月13日	1年	1年 「いろいろなふね」
全校道徳	10月24日	1～6年	「通学路の神様」（創作教材：高知新聞参照）

- ・言語活動を充実する（ひとり学び、ふり返り、授業後の感想）
- ・資質、能力ベースの「めあて」の提示
- ・大用小スタンダードをつかった授業の流れ
- ・国語科の物語文、説明文を中心に予習を行い、それを活用した授業づくり
- ・予習カードの見直し（物語文、説明文を単元ごとに作成する）
- ・複式授業等の研究（学習リーダーを中心にした、児童の主体的な授業づくり）
- ・板書を掲示し交流する。

②全校活動

作文・新聞朝会、クロッキー朝会を通し、意見や感想などを出させる。

③体験活動

縦割り班を活用し、リーダーを育て仲間づくりをしていく。地域の行事（片魚、常六との地域交流・まつり等）では児童主導で活動し、交流をする。

④基礎タイム

基礎学力向上をめざし、10分間学習を継続して行う。月・火は国語、水は国語（1.2年）理科（3～6年）、木・金は算数の内容を行う。国語では言語活動や読解を中心に行う。

⑤加力学習

期間を設定し、放課後40分程度、全教職員で取り組む。

⑥家庭学習

「家庭学習の手引き」をもとに、基礎学力の定着や音読練習、家庭読書、予習、タブレットでのドリル学習等、授業へ向けての学習を習慣化させる。

⑦ふるさと教育

これまでの行事を基本にしながらふるさとの良さを発見する取組を行う。
講師を招聘し、地域について学習する。

⑧ノート活用

定期的にノートや作成したもの（新聞や調べ学習など）を掲示し、取組を共有し合う。

⑨特別支援教育

全学級と教職員に児童理解学習を行う。

⑩新聞活用

新聞に興味を持ち、新聞に親しむ習慣をつける。

ワークホールに新聞コーナーを設ける。

新聞朝会を行う。はがき新聞、学級新聞づくりを行う。

読み取った資料をもとに、自分の見方、考え方を広げたり、深めたりする。

授業の中で活用する。高知新聞へ投稿する。

新聞から表現方法を学び、学習のまとめとして新聞づくりを取り入れる。

高知新聞社の方を招聘し、新聞の書き方を学ぶ。

5. 今年度の成果と課題【成果（○） 課題（●）】

○授業研をすることで他の先生の複式の授業をみるできるので勉強になった。

○上級生の授業を見て複式の授業のやり方が分かった。

○予習シートを作成するのに時間がかかるが、授業の見通しを持ちやすい。

○新しい予習カードを作成したが、前の予習カードも授業中に活用しているので

「言語カード」として残していく。

○全校道德の教材を考えるのが大変だが、他学年の考えを聞けるのは良かった。

○朝会では、低学年は上級生の発表や意見を聞き参考になっているので良かった。

○新聞づくりは、学習したことを発表しているのでいいと思う。

○作文、新聞朝会では、年間計画で2人ずつの発表だと、時間超過することがなく良かった。

○朝会では、内容の濃い感想を言うことができているので良かった。これからも繋げていきたい。

○話の聞き方が良くなっているので、これからも全体に指導しながら続けていく。

○加力学習は、全教職員で取組むことで集中して取組むことができ良かった。

○学力調査の分析を全教員で行い課題や方策を共有することができ、日々の授業に生かすことができた。

○年度当初にタブレット（ロイロノート）の活用を校内研修することで授業や研究協議に取り入れることができた。

○高知新聞の方に来ていただいて新聞の書き方について学びよく分かった。来年度は低学年も指導してもらえないだろうか。

●研究授業で出された取組をその場限りにせず、普段の授業でも取組んでいく。

●研究授業を自分事として考えられるように、来年度は教材研を2週間前にして、本時の流れを中心に検討する時間を設ける。

●指導案の形式の枠などが崩れやすく記入しにくかったので、来年度は様式を使いやすいものに変更する。

●板書交流をしてきたが、タブレットを活用すると板書に残っていない場合があった。

●ノート交流はタブレットを活用すると書いていない場合があるので、授業で作成した成果物を掲示するようにしてはどうか。

●家庭学習は「家庭学習の手引き」の活用があまりできていない。低学年は時間が読めないで時間が守れているのかは分からない。家庭の協力が必要となる。

●新聞の活用をもっとできるようにしたり、記事を書く時にも1つのことを詳しく書く指導など、NIE教育を進めていく。